

# さ ざ ん か

第71号、2007年9月

早々と台風がきたり、記録破りの猛暑であったりした今年の夏でした。毎年暑い、暑いといっているし、なんか暑さにもなれたなあと思っていたら、気温が40度を超えるところが何ヶ所もでてきたりして驚きました。まったく砂漠じゃあるまいし。空気がお風呂みたいな熱さですから、それじゃ熱中症で100人以上の方が亡くなったのも当然かもしれません。暑くて死にそうだ、などと冗談を言いますが、冗談が冗談でなくなってきている怖さがありました。にわか雨だと思ってたら熱帯のスコールのような大雨だったり、やはり温暖化というのは間違いなく忍び寄ってきているというのを実感した夏でもありました。

高校野球もまた強烈な印象を残しました。鹿児島県代表の神村学園は、あの大阪桐蔭を破った金光大阪に見事な勝利を得ましたが、残念ながら帝京高校には負けてしまいました。

その強豪帝京高校を延長で破り、さらには同じ九州勢の長崎日大に勝ち、名門広陵高校に劇的勝利を収めたのが無名の佐賀北高校でした。(もしかしたら佐賀では有名なのかもしれませんが)。多分、地元の人以外、佐賀北の優勝を予想した人はいないのではないのでしょうか。いや、もしかしたら地元の人ですら優勝までは期待していなかったかもしれません。佐賀北高校がそうであったように、スポーツは我々に夢と希望を与えてくれる力があります。遠く外国まで観客が入れないと分かっているサッカー試合の応援に行く熱狂的なサポーターの人とか、一部のトラキチ(阪神ファン)の人たちを見ていると夢とか希望を通り越してある種の病的な雰囲気すら感じたりもしますが、それだけ人々を熱中させるものがスポーツにあるということでしょう。

「観るスポーツ」ももちろん楽しいものですが、「するスポーツ」もまた楽しいものです。酷暑の季節は過ぎ、スポーツの秋がやってきました。体を動かすことは理屈を捏ね回すだけでは得られない何とも言えない本能的な快感があります。怪我をしないようにして大いにスポーツを楽しみましょう。

===== 俳句 ===== 西屋敷 喜美子

気遣いの 電話を貰ふ 酷暑かな

静けさや 緑したたる 山ありて

## 病院からのお知らせ

- \* 外来の採血開始時間を午前 8 時半から 8 時に変更しました。朝食抜きの採血があるときは早めに来院して採血をすませ、診察時間が来るまでゆっくりと朝食を取っていただくとと思います。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。  
お薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみたいはいかがでしょうか。
- \* MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることもあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。
- \* MRI は腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症など）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* マルチスライスCTで、心臓冠動脈造影もできます。心臓カテーテル検査の代わりにもなることもあります。その他全身の血管撮影に威力を発揮します。人は血管と共に老いる、といいます。MR 血管撮影とあわせて利用できます。ご相談は各科の主治医にどうぞ。
- \* 一階売店近くのロビーに「創作ひばり会」の盆栽が展示してあります。日本人の粋を代表する芸術ですのでゆっくり「盆栽ワールド」をご堪能下さい。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- \* リハビリテーションのみが目的の方で、2,3ヶ月歩行訓練とか筋力増強訓練を希望される方には亜急性期病床を8床準備してあります。ご希望の方がいらっしゃれば各科外来にてご相談下さい。
- \* 北薩病院のホームページにもこの「さざんか」は掲載しております。ホームページを見ていただくことで、遠方在住の家族の方に、自分の親や兄弟、姉妹がかかっている病院のことを少しでも知っていただければよいなと思います。（安心するか、心配するか）
- \* 専門外来のお知らせ  
肝臓病：毎週月曜日午後（鹿児島大学小原医師）  
血液病：毎月第2火曜日（鹿児島大学大納医師）  
糖尿病：毎週 月、金曜日（福重医師）  
神経難病外来：隔週水曜日午後（院長）

## ペースメーカー 島畑 ノブ

突然、目の前が真っ暗になり、黒い風船がパッとはじけてスーッと、空気が抜けたような、今まで経験した事のない状態になった。それも瞬間的で体を横たえていると治った。

救急外来まで電話をいれて、朝すぐに検査をしてもらった循環器の先生が、「これは大変、救急車だ」と言われるが、実感が湧かなかった。「ちょっと帰してください」「それはできません」。あわただしく救急車に乗せられ、隼人医師会立医療センターに運び込まれ、不安と焦燥にかられながら、いろいろと考えられる意識だけはあったのでありがたかった。

病気について「脈搏が下がり、危険な状態です。脈搏を上げる薬はないんだよね。ペースメーカーを入れるしか方法はないです」と言う事で観念するしかなかった。手術の前の1週間、絶対安静の時期、いろんな思いをし、反省もしてみた。十年一日の如く、雨の日も、風の日もいとわず、唯々、ひたすら走り続けた自分をちょっと立ち止まって見つめる。余裕も必要だったんだと言う事を痛感した。

CT を撮ってもらって「頭はまだ大丈夫だよ」「あ、良かった」「いくら考えてみてもなるようにしからないよ」「先の事は考えないようにしよう」「病人の事に一生懸命尽くしてみても、自分が倒れた時、みてもらえる保証はないですよ」つい、この間聞いたばかりだった。自分はまだまだ大丈夫、先の話だなんて勘違いしていた。やっぱり年なんだ。体が年を取ってしまった。手術も無事終わって、もう退院ですよと言われた。でも、嬉しさ半分、心配半分。

私はすっかり機械人間になってしまった。いろいろな制限があり、今まで通りには行かない。退院してまだ精神的に不安定で、マイナス思考ばかりに落ち込んでいる時、入院先の係りの看護師さんより優しい手書きのハガキが届き、嬉しくて元気が出ました。「其の後、如何お過ごしでしょうか、スタッフ一同」とありました。退院した後まで気遣って戴いて、折角元気にももらったんだから、急がず、あせらず、心機一転、これからマイペースでほつりほつり歩いて、一日一日を大切に感謝の気持ちで生きて行こうと思います。

救急車の手配をして下さった先生、搬送して下さいました看護師長さん、入院中も北薩病院からよろしくと電話が来ましたよと知らせて下さった向こうの先生からの知らせ、本当に嬉しかったです。戻ってくると、それぞれ先生方や看護師さん達が次々に声をかけて下さって、我が家に帰ったような安心感があります。一言、皆様にお礼が述べたくて。

## ポックリ死ぬにはよく働くこと 宮園辰夫

私は平成4年の2月に倒れて入院。所が病院では私以上の重症患者が殆どで、今日も1人、明日も1人と安置室のほうへ運ばれていく。よーし、俺はまだしなければならない仕事

たくさんある。やっと家も新築したし、借金も返さなければならないし、子供達にもこれから世帯を持たせてやらなければならないし、死んでたまるかと、リハビリも午前、午後一日2回ずつ。リハビリの先生がびっくりする位一生懸命でした。

その甲斐あって、3ヶ月ちょっとで退院をすることが出来ました。それには先生を始め看護師さん達の力を借りて元気になれた事を忘れてはならない。その時の病棟の師長さんには恩返し出来るだろうか。当時入院していた患者さんは1人も生きていらっしやいません。お蔭様でまだ痴呆老人の中にも入っていません。楽しく毎日を送る心掛けをしよう。

老後だってこわくないと思って生きよう。ポックリ寺参りなんていうのがある。お参りばかりしてはいけない。ポックリ死ぬという努力をしなくてはいけない。それには何か趣味を持ち、頭を使い、よく考えて働くことだ。年を取ることはステキなこと。だが、やはり荷が重い。

やがて日本は4人に1人が老人になるんだ。定年になったからって、誰でも楽隠居ができる世界じゃなくなっている。年を取るにも勇気がいる。この間、近所の子供達に「ウルトラマンのアラシ隊員だよ、知ってるかい」と聞いたら、「アラシ隊員は知っているけど、おじさんは年とっているだもん、分からんよ」と言われて、なるほど30年前のことだから・・・俺も年取ったもんだ。ああ若いということはいいいことだ、年は取りたくないもんだ。でもしょうがない。世の定めだから。若いもんが追い越すかもね・・・。

## 冬木立

やはらかに柿の葉鳴らす雨の音 今日休みに日もすがら聞く

膝悪き妻が石段登り来たりて 吾が前に立つ

## さつま狂句

我が亭主 世辞取りが 下手で出世せじ

産ん前で脱つとも着つともやっとな娘

## カラーマン秋に吼える

カラーマン（とその女）

世界に誇る独自の文化と文明を築いてきたわれわれ日本人は少なくともアホではないと私は信じてきた。（あら、じゃあ、今はそうじゃないってこと。あなたはアホだけど、日本人全体はやはり賢いのじゃないかしらね）

大陸文化を取り入れ、それをものまねするのでなく、日本式に加工し独自の文化・文明を形成してきた日本人。むしろオリジナルの大陸文化よりも優れたものを創出してきた日本人たち。青は藍より出でて藍より青し。それは現代でも同様で、20 世紀西洋文明の代表作とも言える自動車ではなんと世界一のメーカーを生み出したことはとても凄いことである。奢らず、ひたむきに自動車作りをしてきた結果だろうと誇らしく思ったりもする。(そうね、そのひたむきさはなんか昔の職人氣質と通じるような気がするわね)

かつてライバルメーカーだった会社は、西洋式思考法で、工場を閉鎖し従業員の首を切ることで経営を立て直し、一時はそのことが随分賞賛されもしたが、ヒトなくしてモノは造れないということの原理原則の前に今は低迷していると聞く。(ヒトを大事にしない会社の姿勢に、優秀なヒトも嫌気をさして逃げ出したとかいうわね)モノに限らず、当たり前だが会社にはヒトが必要なのである。

それなのに相変わらず多くの企業はヒトを大事にしようとしていない。出来るだけ正社員を減らして派遣社員で賄おうという“ヒトでなし”なことばかり考えている。如何に人件費を減らすか、が最大の関心事なのだ。少なくとも、如何に従業員を幸せにするか、と考えている企業が一握りであることは確かなことのようにだ。医療保険料とか、年金とかを肩代わりせず、いつでもクビにできて退職金も払わないか払っても雀の涙程度の従業員を安い給料で沢山雇うことが人件費の節減になり、それが会社の繁栄になると思っているから救いようがないアホである。そうして得た利益は株主のものだ、それが資本主義だよ、としたり顔でいう。(あなたに言わせるとそれは資本主義原理主義っていうのでしょうか。派遣会社っていまは儲かっているらしいわよ。もちろん派遣会社の創業者とかそういう人達だけだけ。)

原理原則は大切であり、それなしでは世の中は上手く成り立っていかない。しかし、原理主義がはびこると世の中はもっと成り立っていかないのである。政治資金の問題にしてもその用途は透明であるという原則は必要だが、1 円の領収書まで必要だというのは明らかに原理主義である。(そうよねえ。貧乏人のあかしでも 1 円単位で家計は運営してないわ。あー、今日は昨日より 7 円も出費が多かったわなんてね。大体、政治家に厳しく言っているマスコミの人だって、1 円単位の領収書を出せて言われたら無理なんじゃないの?)

税金を平等に使うのは当然だけど、交通量の少ない田舎に道路は必要ない、という理屈では地方は疲弊するばかりだ。田舎に不相应に投資することも、結局は地方の衰退を防ぎ全体のためになることもあるのである。ただし、投資の内容は土木・土建から農業や教育へ変えるなどの知恵と工夫は必要であるかもしれない。(地方の高校生が進学したり、専門職を得るためにその費用を全額補助するってのはどうかしら。立派な教師や職人さんにな

ってまた地方に帰ってくるとすれば過疎も防げるし、分不相応な橋や道路を田舎に作って都会の人に無駄遣いだ！って文句言われるよりいいんじゃないかなあ？)

原理主義のカチを変えた何が何でも効率一辺倒主義では全体は繁栄しないのである。100 あるものを 2,3 人が 50 取り、17,8 人が 30 取り、残りの 20 をあとの 80 人で分配する社会（それも実は 100 生み出すのに一番汗を流したのは分配の少ない 80 人である）は資本主義原理主義の社会に近い。（それってほぼ現代のアメリカ合衆国に近いのかしら）反対に 100 人で一様に分配しようとする共産主義原理社会はすでに実験的に失敗している。（ソ連がそうだったってことだわね）当然、その中間の社会形態があるはずで、それが本来の資本主義であろうと思う。本質は努力しない人よりも努力する人が報われる社会である。上手に立ち回るものが得をする社会ではなかったはずである。

中国大陸から漢字を受け入れながらも、日本独自のひらがなやカタカナを発明しハンチントンをしてただ一つの国でありながらも世界の 7 大文明のひとつと言わしめた日本人、欧米からとりいれた西洋文明においても独自の生産方式・思考法（カンバン方式）で世界一になった企業を生み出した日本人。同様に欧米から取り入れた資本主義も日本独自に解釈し、これまでと同様に物まねでない日本独自の資本主義というものはできないものなのであろうか。

欧米物まね、追従でない独自の経済体制を生み出す天才的な学者は日本にはいないのであろうか。日本人からマルクスやアインシュタインは出てこないのであろうか。（それは無理だわ。だって世界の学問とか芸術の天才は殆どユダヤ人らしいもの。）（お、お前のようなアホがいるから私は心配しているのだよ）（まあまあ、そうつっぱらないで資本論や相対性理論はマルクスやアインシュタインに任せてあたしたちは愛を語りましょうよ。愛のない世界ってつまらないものよ）（ふん。愛しかない世界もまた下らんと思うけどな）

（とにかく、あまり肩肘張らずに生きていきましょうよ。）（まあそうだな。それもまたいいのかもな）

---

---

## 編集後記

---

---

あっという間に秋になりました。経済は一流、政治は二流と揶揄されていますが、その二流の世界では相変わらずドタバタしているようです。誰であろうと、どの政党であろうと、いまの医療崩壊に終止符を打ち、医療再生をはたして春が早く来て欲しいと願わざるを得ません。医療界の冬はもう終わりにして欲しい。(KT)